

ファミリー健診パック

ファミリー健診パックの補助を受けた場合、「人間ドック」、「特定健診のみ」の補助は受けられません。



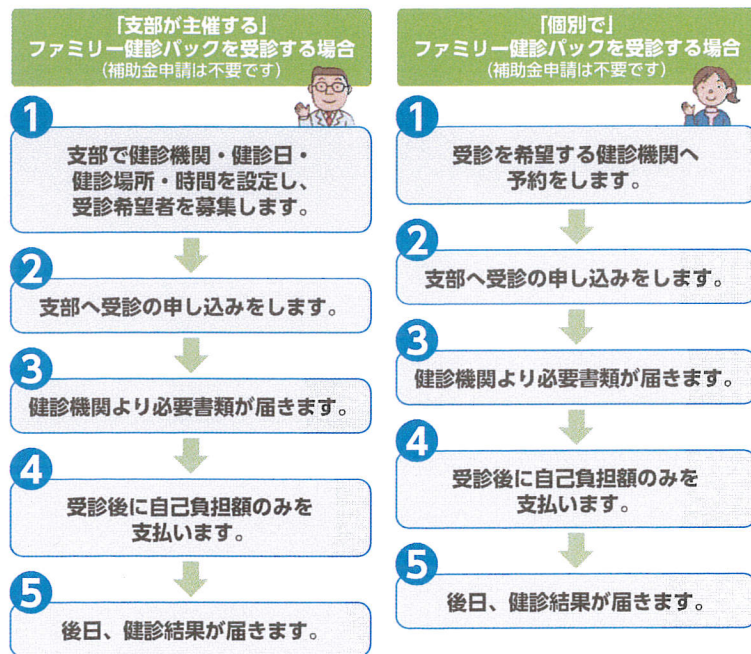
特定健診に比べて内容が充実しており、胸部X線・胃部X線・心電図・眼底・大腸がん検診を含んでいます。

とくに家族の方から積極的に受診していただくために設けられた健診メニューで、人間ドックより安価な料金で、受診していただけます。

■ 対象者・補助金

対象者	被保険者の資格期間が8か月以上・受診日において25歳以上の方
補助金	健診費用(16,500円)の7割を補助(本人負担額は4,950円)
当日の持ちもの	マイナ保険証または資格確認書と特定健康診査受診券(40歳以上の方)

■ 申請手続



支部が主催するファミリー健診パックについては、健診機関・健診日・健診場所・時間を設定し、受診希望者を募集します

※個別での受診も可能ですので、受診を希望する下記の健診機関へ直接予約を入れてください。

- (一社)新潟県労働衛生医学協会
 - 新潟健診スクエア ☎025-370-1961
 - プラーカ健康増進センター ☎025-370-1961
 - 集団検診センター ☎025-370-1961
 - 新津成人病検診センター ☎025-370-1961
 - 県央健診スクエア ☎0256-92-3300
 - 吉田検診センター ☎0256-78-8212
 - 燕検診センター ☎0256-78-8212
 - 柏崎検診センター ☎0257-22-5665
 - 十日町検診センター ☎025-752-6196
 - 小出検診センター ☎025-752-6196
 - 佐渡検診センター ☎0259-55-3175
- (一社)新潟県健康管理協会 ☎025-245-4455
- (一財)新潟県けんこう財団
 - 新潟健診プラザ ☎025-245-1177
 - 西新潟健診プラザ ☎025-231-1122
 - 長岡健康管理センター ☎0258-28-3555
- (一社)上越医師会 上越地域総合健康管理センター ☎025-521-0521

■ ファミリー健診パックの検査項目

(詳しい検査内容については、P12~P13をご覧ください)

- 医師の診察
- 身体計測(身長・体重・腹囲・BMI)
- 血圧測定
- 脂質検査(中性脂肪・HDLコレステロール・LDLコレステロール・総コレステロール)
- 肝機能検査(AST(GOT)・ALT(GPT)・γ-GT(γ-GTP)・ALP・TP・A/G比・コリンエステラーゼ・アルブミン)
- 血糖検査(空腹時血糖・HbA1c・血清尿酸)
- 貧血検査(ヘマトクリット・ヘモグロビン・赤血球数・白血球数・血小板数)
- 腎機能検査(尿素窒素(BUN)・クレアチニン)
- 尿検査(尿糖・尿蛋白・尿潜血)
- 胸部X線(間接)撮影
- 胃部(間接)撮影(8枚法)
- 心電図検査
- 眼底検査(片目)
- 大腸がん検査(2日法)



ファミリー健診パック・特定健診の検査項目

健診内容を見て、どこに異常があるのかを確認しましょう。また、複数年の検査結果を比べて、徐々に異常値になっている項目に注意しましょう。以下は主な検査項目の内容です。(★は特定健診の検査項目)

理学的検査★

視診、触診、聴診によって体の状態を外側から調べます。

身体計測★

身長・体重を測定し肥満を判定します。腹囲はメタボ判定の目安となります。

BMI

身長に対する体重の比率。25以上を「肥満」、18.5未満は「やせ」と判定されます。

[BMIの計算方法]

$BMI = \text{体重(kg)} \div \text{身長(m)} \div \text{身長(m)}$

腹囲

おへその高さで測定し、内臓脂肪の蓄積を調べます。男性は85cm以上、女性は90cm以上だと内臓脂肪型肥満の疑いがあると判定されます。

血圧測定★

日本高血圧学会作成のガイドラインでは「収縮期血圧140mmHg以上、あるいは拡張期血圧90mmHg以上」を高血圧と定めています。(特定健診では上は130mmHg以上、あるいは下は85mmHg以上からチェックの対象としています。)

胸部X線(間接)撮影

胸部のX線撮影により、肺や気管支などの異常を調べます。

胃部(間接)撮影(8枚法)

バリウムを飲んで食道・胃・十二指腸を調べます。

血中脂質検査

食べすぎ、飲みすぎなどで血中脂質に異常があると、動脈硬化のリスクなどが高まります。

中性脂肪★

中性脂肪は、肝臓でエネルギー源として貯蔵され、利用されるものです。血液中に増えすぎると動脈硬化を進行させます。中性脂肪値が高くなるとHDLコレステロール値が低くなることがあります。

HDLコレステロール★

血管壁に付着した余分なコレステロールを回収して肝臓へ運び、処理する機能があります。不足すると血管壁のコレステロールが回収されず、動脈硬化を進行させます。

LDLコレステロール★

肝臓から全身にコレステロールを運び機能があり、余分に増えると血管壁にたまり単独で動脈硬化を進行させます。

総コレステロール

細胞の構成に不可欠で、多くなりすぎると動脈硬化の原因になります。

肝機能検査

肝臓機能の異常を調べます。肝炎ウイルスやアルコールの過剰摂取、また肥満、疲労などでも肝機能は低下します。

AST(GOT)/ALT(GPT)★

どちらもアミノ酸の代謝を助ける酵素です。ともに肝細胞に含まれ、肝臓に障害が起こると血液中に漏れ出ます。

ALTの多くが肝細胞に、ASTは心筋や骨格筋の細胞に多く含まれており、両方の値を比較することで、病気の種類を特定できます。

γ-GT(γ-GTP)★

グルタミン酸の代謝を助ける酵素で、肝臓や胆道に障害が出ると値が高くなります。アルコール常飲者は値が高くなります。

アルカリフォスファターゼ(ALP)

肝臓や骨、腎臓などに多く存在する酵素で、これらが障害を受けると数値が高くなります。

総蛋白(TP)

血清中のアルブミンとグロブリンの総量を調べ、肝臓や腎臓に異常がないか見ます。

A/G比

血清中のアルブミンとグロブリンの比を調べ、主に肝臓に異常がないか見ます。

コリンエステラーゼ(ChE)

肝臓で合成されるコリンエステラーゼの血中量を見ることで、肝臓や腎臓に異常がないか見ます。

アルブミン(Alb)

肝機能や栄養状態が悪くなると数値が低くなります。

血糖検査

高血糖状態や糖尿病でないか調べます。

食べすぎ、飲みすぎ、運動不足などで高血糖になりやすくなります。

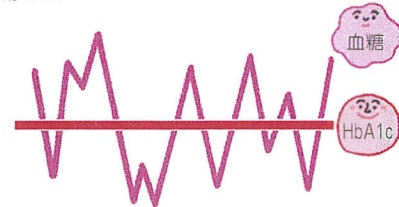
空腹時血糖(BS)★

飲食でとり込んだ糖質は、消化吸収によって血液中に入ります(血糖)。

血糖値を下げるのはすい臓から分泌されるインスリンの仕事です。これが不足すると血糖値は高いままになり、糖尿病になります。

HbA1c(ヘモグロビンA1c)★

飲食によって変動する血糖値とは異なり、HbA1cは、過去1~2か月の平均的な血糖の状態です。糖尿病の治療の効果や動向を調べるのにも有効です。



血清尿酸

細胞の成分のプリン体が分解したときにでき、高い状態が続くと痛風になります。

貧血検査

血球や赤血球の状態を調べます。

ヘマトクリット

血液に含まれる血球の割合です。この数値が低いと、貧血が疑われます。

血色素(ヘモグロビン)

全身に酸素を運ぶ赤血球の働きを助けています。血色素が少ないと、貧血になる可能性が高くなります。

赤血球数

赤血球には、全身の組織に酸素を運び、二酸化炭素を回収する役割があります。減少すると貧血状態になります。

白血球数(WBC)

病原体などを撃退する働きを持ち、炎症があると血液中に増えます。

血小板数(PL)

血液を凝固させる働きを持ち、多すぎても少なすぎても異常が生じます。

尿検査

血液中の老廃物は、腎臓でろ過され尿として排出されますが、腎臓などに異常が生じると、尿中の物質量に変化が生じます。特に尿蛋白は、慢性腎臓病の発見に重要な指標です。

尿糖★

健康時には、血液中のブドウ糖(血糖)は尿として排出されませんが、血糖が多くなりすぎたり、腎臓に障害があると尿に糖が含まれます。尿糖検査は糖尿病の早期発見に役立ちます。

尿蛋白★

健康な人でも尿にはごく少量の蛋白質が含まれていますが、この量が増加すると腎機能の障害が疑われます。

尿潜血

尿中に血液があるかどうかで腎機能に異常がないかを調べます。

腎機能検査

腎臓のろ過機能が低下すると、血液中に老廃物などが増加します。

尿素窒素(BUN)

蛋白質の分解による老廃物で、腎機能に異常があると血液中に増えます。

血清クレアチニン

老廃物の一種で、腎機能に異常があると血液中に増えます。

心電図検査(12誘導心電図)

心臓の筋肉が収縮するときに出る微弱な電流の変化を調べて、心臓の筋肉や脈の異常、心臓に酸素を送る冠動脈硬化の有無などを調べます。

眼底検査(片目)

眼底は脳とつながる眼球の奥の組織で、肉眼で唯一、動脈の状態を観察できます。

動脈硬化の状態や脳卒中、糖尿病性網膜症の予知などに役立ちます。

大腸がん検診(2日法)

大腸がんなどの異常があると、腸内で出血が起こるため、便中の微量の血液(潜血)を調べます。